



国

語

人間文化学部

生活デザイン学科

人間関係学科

国際コミュニケーション学科

地域文化学科

(60 分)

(90 分)

注 意 事 項

- 1、解答開始の合図があるまで、この問題冊子および解答冊子の中を見てはいけません。
また、解答開始の合図があるまで、筆記用具を使用してはいけません。
- 2、問題は3題で、13ページありますが、志望する学科によって解答する問題が異なるので注意しなさい。指定されていない問題を解答しても採点しません。
- 3、生活デザイン学科・人間関係学科・国際コミュニケーション学科を受験する者は、第1問・第2問を解答しなさい。地域文化学科を受験する者は、第1問・第3問を解答しなさい。

この注意事項は、問題冊子の裏表紙に続きます。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

4、解答開始後、解答冊子の表紙所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入しなさい。表紙にはこれら以外のことを書いてはいけません。

5、解答は、すべて解答冊子の指定された箇所に記入しなさい。解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがあります。

6、解答冊子は、どのページも切り離してはいけません。

7、試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。解答冊子を持ち帰ってははいけません。

第1問

次の文章を読んで、後の問い(問1～4)に答えよ。

矢野智司『意味が躍動する生とは何か―遊ぶ子どもの人間学』（世織書房、二〇〇六年）より一部改変

問1 傍線部ア～オのカタカナを漢字に直せ。楷書ではつきりと書くこと。

問2

①

には、次のA～Dを並べかえた文章が入る。最も適切な内容となるようA～Dを正しく並べよ。

A なぜなら、あらゆる目的は、その目的が実現されたときにはもう目的であることをやめてしまい、つぎの目的（未来）のための手段に転化してしまうからだ。

B だから目的を実現するための行為は、いつも目的にとっての手段となる。

C 私たちが行為するときには、行為の開始前に何か行為の目的が存在している。

D 行為は、目的の実現に役だつわけだ。この有用性の世界では、最終的な目的など存在しはしない。

問3

傍線部②「『発達論理』だけでは、人間は十分に成長することはできない。」とあるが、なぜ十分に成長できないのか理由を示した上で、成長にはほかにどのようなことが必要なのかを本文中の表現を用いて一二〇字以内で説明せよ。

問 4

本文の内容に合致するものを次の中からすべて選び、番号で答えよ。

- 1 生活体験というのは子どもの成長には不可欠なものであるにもかかわらず、その欠如がさまざまな社会問題を引き起こす元凶となっている。
- 2 生活体験が子どもの成長に不可欠かどうかは疑いの余地があり、大人が子ども時代を振り返って懐かしむ気持ちから必要としているにすぎない。
- 3 労働の世界を特徴づける考え方だけでは教育や遊びの本質を見逃してしまうが、遊びという体験こそが子どもの成長にとって有効な手段といえる。
- 4 遊びは遊ぶことそれ自体が目的であるのに、教育の世界においては子どもが成長するのに必要不可欠な手段として評価される傾向にある。
- 5 知性を超えた生活体験がもたらす意義は大きく、子どもよりもむしろ教育に携わる者がその意義を理解し、体験を積み重ねる必要性がある。
- 6 現代においては、地域社会の学校化が進行することで、子どもたちの世界が狭まり、その分、自分自身の価値を見いだすのが困難になっている。

第2問

次の文章を読んで、後の問い(問1～3)に答えよ。

小田部胤久「美しいとはどういうことか？ 世界との適合を改めて内から生きる」

（『現代思想』第五二巻第一号、青土社、二〇二四年）より一部改変

問1 傍線部①「日常的知覚の特質」とあるが、その特質を二点、本文中の表現を用いながらも二五字以内で述べよ。句読点は含めない。

問2 傍線部②「私たちがカテゴリー的な枠組みを宙吊りにするとき、いやむしろ、私たちにカテゴリー的な枠組みを宙吊りにするよう促す感性的対象に出会うとき」とあるが、筆者はなぜ「私たちがカテゴリー的な枠組みを宙吊りにするとき」を「私たちにカテゴリー的な枠組みを宙吊りにするよう促す感性的対象に出会うとき」と言い換えているのか。筆者が「見る」と「見える」について述べていることがらに触れながら一五〇字以内で説明せよ。

問3 傍線部③の芸術作品は「美的知覚を客観的世界のうちにいわば固定することはできないのであろうか」との問いかけに対して、筆者はこれがどのようにして可能になると考えているか。本文中の表現を用い、具体的な行為を挙げながら、八〇字以内で説明せよ。

第3問

次の文章は『蜻蛉日記』の一部である。『蜻蛉日記』は、作者が夫との結婚生活などについて書いた日記である。文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。

かくてかぞふれば、夜見ぬことは三十余日、昼見ぬことは四十余日になりけり。いとにはかにあやしといへばおろかなり。心もゆかぬ世とはいひながら、まだいとかかる目は見ざりつれば、見る人々もあやしうめづらかなりと思ひたり。ものしおぼえねば、ながめのみぞせらるる。

〔中略〕

明くれば言ひ、暮るれば嘆きて、さらば、いと暑きほどなりとも、^アげにさ言ひてのみやは、と思ひ立ちて、石山に十日ばかりと思ひ立つ。

忍びてと思へば、^イはらからといふばかりの人にも知らせず、心ひとつに思ひ立ちて、明けぬらむと思ふほどに出で走りて、賀茂川のほどばかりなどにて、いかで聞きあへつらむ、追ひてものしたる人もあり。有明の月はいと明^{あか}けれど、会ふ人もなし。河原には死人^{しびと}も臥せりと見聞けど、恐しくもあらず。粟田山といふほどにゆきさりて、いと苦しきを、うち休めば、ともかくも思ひわかれず、ただ涙ぞこぼるる。人や見ると、涙はつれなしづくりて、ただ走りてゆきもてゆく。

〔中略〕

申の終りばかりに、寺の中につきぬ。齋^ゆ屋に物など敷きたりければ、行きて臥しぬ。ここちせむかた知らず苦しきままに、臥しまるびてぞ^ウ泣く。夜になりて、湯などものして、御堂に上る。身のあるやうを仏に申すにも、涙に咽^{むせ}ぶばかりにて、言ひもやられず。夜うち更けて、外のかたを見出だしたれば、堂は高く、下は谷^{しも}と見えたり。片崖^{かたきし}に木ども生ひこりて、いと木暗^{くろ}がりたる、二十日月、夜更けていとあかければ、木蔭にもりて、ところどころに來しかたぞ見えわたりたる。見おろしたれば、麓にある泉は、鏡のごと見えたり。高欄におしかかりて、とばかりまもりゐたれば、片崖に、草の中に、そよそよ、しらみたるもの、あやしき声するを、「こはなにぞ」と問ひたれば、「鹿のいふなり」といふ。^エなどか例の声には鳴かざらむと思ふほど

に、さし離れたる谷のかたより、いとうら若き声に、はるかにながめ鳴きたなり。聞くここち、そらなりといへばおろかなり。思ひ入りて行なふここち、ものおぼえでなほあれば、見やりなる山のあなたばかりに、田守たもりのもの追ひたる声、いふかひなく情なげにうち呼ばひたり。かうしもとり集めて、肝を砕くこと多からむと思ふに、はてはあきれてぞゐたる。さて、後夜ごや行なひつれば下りぬ。身よわければ齋屋にあり。

『蜻蛉日記』より一部改変

注 賀茂川……京都を流れる川の名称。

栗田山……京都の地名。

齋屋……湯あみをするところ。

田守……動物などが田を荒らさないように守る番人。

行なふ……読経などをする。

問 1 傍線ア「げにさ言ひてのみやは」を現代語訳せよ。

問 2 傍線イ「はらから」の意味は何か。次の中から正しいものを選び、番号で答えよ。

- | | | | |
|------|------|-----|--------|
| 1 友人 | 2 親戚 | 3 親 | 4 兄弟姉妹 |
|------|------|-----|--------|

問 3 傍線ウの「」内の二つの語を正しく活用させて、文を完成させよ。

問 4 傍線エ「などか例の声には鳴かざらむと思ふほどに」を現代語訳せよ。

問 5 傍線オ「いとうら若き声に、はるかにながめ鳴きたなり。聞くこころ、そらなりといへばおろかなり。」とあるが、

① 「いとうら若き声」で、何が、なぜ鳴いたのか、記せ。

② 「聞くこころ」とあるが、作者はそれを聞いたときに、どのようなことを思い起こして「そらなりといへばおろかなり」と感じたのか、述べよ。

問 6 『蜻蛉日記』の作者は誰か、記せ。